

生涯教育

2020

春

季刊 No.122



写真提供：姫路市

評議員会および研究助成金授与式、論文入賞者表彰式 2

第35回 彫刻奨学生作品展 6

プロフィール・インタビュー
愛知県立芸術大学 学長 戸山 俊樹さん 12

いつでも どこでも だれでも学べる



公益財団法人北野生涯教育振興会
KITANO FOUNDATION OF LIFELONG INTEGRATED EDUCATION



評議員会および 研究助成金授与式、 論文入賞者表彰式

人生100年時代の到来を見据え、学び直しの機会を提供

2019年11月8日、The Okura Tokyoにて評議員会および研究助成金授与式、論文入賞者表彰式が行われた。評議員会では、第46期決算および第47期予算が報告され、すべて承認された。

その後、会場を移し、例年通り研究助成金授与式、論文入賞者表彰式が行われた。冒頭、財団を代表して城真二常務理事が以下のようにあいさつした。「当財団は1975年に設立され、以降44年間、学びを志す人々に学びの場を提供してまいりました。2010年12月には公益財団法人の認定を受け、9年が経過。今年で10期目に入り、より公益性を高めた事業を行っております。1976年から実施している研究助成金は、今年で延べ121名となりました。また1977年から実施している懸賞論文は今年で41回目となり、応募者数は延べ12,393名となりました。まさに継続は力なりを実践している事業です。人生100年時代の到来を見据え、『学習・就職・老後』というこれまでの3ステージから、マルチステージに向けた人づくりのあり方が議論されています。その基本構想の中にリカレント教育があり、社会人の学び直しの重要性が説かれています。当財団では



あいさつする城真二常務理事

1976年より社会人向けの奨学助成を実施してきました。さらに2021年の実施を目指して、大学・大学院生の新たなリカレント奨学事業の展開を計画しています。今後も皆様のお力添えを得ながら、公益財団法人としてより充実した内容の事業を創出してまいります。」

研究助成金授与式

続いて、生涯教育に関連する調査、研究を支援するための研究助成金の授与式が行われた。今回は給付した10名の内6名が出席し、二人ひとり研究題目と概要を発表した。

「地方における家庭教育支援施策の展開」



嘉納 英明さん
(名桜大学教授)

子どもの貧困率が全国でワーストワンの沖縄県では、平成25年度から家庭教育支援について事業を展開しています。これは「親の学びあい」プログラムというもので、厳しい経済環境の中にある子どもたちに十分な家庭教育を施すことを目的としたものです。これまでに家庭教育支援に関わるリーダーやアドバイザーが多く多数養成されており、今後は活動の状況および成果をまとめていきたいです。

「産学官民連携によるやさしい日本語教育プラットフォーム構築に向けた調査研究

「外国人散在地域の鹿児島県を事例に」



酒井 佑輔さん
(鹿児島大学准教授)

在留外国人の増加率が全国3位の鹿児島県では自然災害が多い上に、原発も立地しています。自然災害および有事が発生した際に備えて地域住民が支え合う関係性づくりが不可欠であり、それは外国人も変わりません。まずは43市町村鹿児島県における、支援団体の活動や日本語教育の内容、教育環境などを可視化し、自治体ならびに関係団体等々が連携を図りやすいプラットフォームづくりを目指します。

「ゲーム障害を予防するためのメンタルヘルスリテラシー教育のツール開発」



篁宗一さん
(静岡県立大学教授)

現在、メンタルヘルスの問題が学校教育などの場で語られることは非常に少ないという現状があります。人生早期の段階でリテラシー能力を高め、メンタルヘルスの予防や予後の改善に役立てられるツールを作っていきたいと考えています。

「難民の社会参加へ向けた生涯教育」



土田 千愛さん
(東京大学大学院博士課程)

日本における難民認定率はわずか0.2%ですが、地域社会には、難民申請を行いながら就労するなど、地域社会を構成する一員として生活している方も少なくありません。本研究では、難民申請者が生涯教育で学習を積み、人格を磨いて豊かな生活を実現することを目指し、公民館を舞台にした難民申請者と地域住民の活動に焦点を当てて、日本独自の生涯教育について論じます。

「生涯教育としてのインクルーシブアートの可能性」子どものアート活動を通じた大人の学びの検討から」



前沢 知子さん

(東京学芸大学大学院博士課程)

美術分野で、作品制作や教育普及を目的としたワークショップを300回にわたって実施する中で、さまざまな参加者の方と会うことができました。障害のあるなしや性別、国籍、年齢にかかわることなく、誰もが参加できる芸術活動の実現のため、生涯教育におけるインクルーシブアートの有用性を示していきます。

「『外国籍住民の教育ニーズ調査』法開発のための基礎調査」



渡辺 幸倫さん

(相模女子大学教授)

行政による外国籍住民の教育ニーズの調査

には画一された手法がなく、自治体の担当者が独自のやり方に一任されています。そこで各自自治体の事例を集めてヒアリング内容や調査手順などの最小公倍数的な枠組みを示し、教育ニーズの調査の一助としていただきたいと思います。

論文入賞者表彰式

最後に、第39回懸賞論文入賞者の表彰式が行われた。今回のテーマは「私の道草」で、全国から464編が集まり、19編が入選した。表彰式に出席した入賞者6名に、城常務理事から表彰状と賞金が授与された。



論文入賞者の皆さん
後列左から山田修さん、米須清富さん、白川好光さん、前真梨恵さん、安部修一さん、前列左から坂本ユミ子さん、城常務理事、小笠原論文審査委員長、小野寺直美さん

第2席「楽しかった!」

坂本 ユミ子さん

(兵庫県・会社員)

父が2歳の時に亡くなり、母が働きに出たため、子どもの頃は鍵っ子で、小学校の帰りには道草ばかりしていました。寂しく感じることもありましたが、当時は大らかな時代で、先生や同級生、地域の大人たちが相手を

してくれました。父と、22年前に亡くなった母に、受賞の喜びと「いろんなことがあったけど、私は幸せだったよ」ということを伝えたいです。

第2席「私の中の『移民時代』」

米須 清富さん

(沖縄県・自営業)

ブラジルの移民生活の中で学んだのは、人間というのは努力しても思い通りにならない時があるということ。それでも私には「こう生きたい」という思いがあるので、それを目指して前へ前へ進んでいきたいです。

第2席「空を飛びたくて」

小野寺 直美さん

(千葉県・主婦)

小さい頃は病弱で、布団の中で、じゅうたんや雲に乗って空を飛び話をよく読んでいて、「いつか空を飛べたら」と思っていました。大学卒業後に海外に飛び出し、旅先の偶然の出会いで夢を叶えることができました。

第3席「自分の道」

山田 修さん

(神奈川県・無職)

道草や寄り道、回り道ばかりの人生で、思う通りにならないこともありましたが、いろいろな経験をさせてくれてようやく「これが自分の道かな」と思えるようになりました。

第3席「我が道草人生に悔いはなし」

白川 好光さん

(埼玉県・不動産会社相談役)

中学卒業後、建築の道に進みましたが、引退後、孫が高校受験する姿を見て一念発起。68歳で受験して、高校に入学しました。現在、行政から寄せられる青少年指導の相談に応

える傍ら、元気に、遅れてやってきた青春を謳歌しています。

第3席「命の回り道」

前真梨恵さん

(岡山県・高校教員)

子どもがいない産後休暇を送るうちに書いたもので、誰かの目に止まって、命について考えてもらうきっかけになれば、と思って応募しました。賞をいただいて、多くの方々に私の体験を読んでもいただけることをとてもうれしく思っています。

第3席「うつ病が教えてくれたこと」

安部 修一さん

(千葉県・会社員)

「健康より原稿」と言われていた時代に新聞社のデスクになり、8年目にうつ病を発症。医師の一言で、困難を選択し克服することが当たり前と考えていたそれまでとは別の道が見えました。

表彰式後の懇親会では、恒例となっている音楽奨学生生の演奏が披露され、和やかな雰囲気の中で交流を深めた。



声楽を披露する長富 将士さん



コントラバスを披露する高橋 慧希さん



フルートを披露する満吉 香苗さん

道草も また、よし



明治大学名誉教授
小笠原 英司

受賞者の皆さん、この度はおめでとうございます。

令和元年度の課題は『私の道草』でした。少し立ち止まって休んだり、好奇心に駆られて寄り道をしたり、思わぬ回り道をしたりと、誰にでもよくありそうな道草の経験が今の自分に何かをもたらしたエピソードや、道草から学んだことなどを論述するという趣旨です。解釈次第で比較的书きやすいテー

マだったせいとか、昨年度を大きく上回る464点もの応募がありました。それでは、受賞作の中で印象深かった事柄について述べてみたいと思います。

向学心冷めやらず

大学人の一人として感服したのは、米須さん、山田さん、白川さん、宮崎さんたちに共通する飽くなき向学心です。昭和30年代までは、大学どころか高校にさえ通えなかった生徒も珍しくありませんでした。その中でもすごいと感じたのは、「不運な境遇の中に埋もれてたまるか！」という強烈な自負心を駆動力とし、尋常ならざる努力によって念願を果たした皆さんの執念です。

米須さんは57年前に一家のブラジル移住により一度は諦めた小学校教員になるという夢を帰国から苦節12年、ついに実現しました。進学校で上位成績の常連だった山田さんは、家計の急変により進学を断念。それから各種の重労働で学費を作り、早朝と深夜の受験勉強に堪えて大学進学を果たしました。4人の子を育て上げた宮崎さんは、乳がん闘病のち「人生の

終盤は自分のためだけに時間を使いたい」と、かつて断念した大学で「死にものぐるい」の勉強に挑戦。塾講師というかたちで「先生」になりました。最年長の白川さんの場合は72歳で高校を卒業し、現在放送大学で勉学中の学生さんです。宮崎さんとともに生涯学習のお手本です。

やむにやまれぬ 思いを胸に

また、小松崎さん、吉田さん、横田さん、野上さんに共通する生き方にも胸を打たれました。細かな相違はあるとしても、スクール・カウンセラー、介護ヘルパー、グループホームの世話人など、特定の介助、世話、相談等が必要とする人々に対する役立ちを天職とする働きを実践しているという点です。いずれも想像を絶する困難な仕事なのだろうと推察します。

特に横田さんの場合は、35年間の公務員生活を定年の2年前に切り上げ、学生時代以来の長い回り道を経て辿り着いた「やむにやまれぬ」思いの実現です。そこでは自分自身に忠実に生き

るといふ「生き方」とともに、働きがいと生きがいの一致とはこういうことだといふ実践例が示されています。横田さんはさらりと述べていますが決して簡単なことではないはずで、その潔さにも圧倒されます。潔さというところで

は長年務めた教職を介護退職し、両親の在宅介護の道を選んだ吉田さんにも言えます。また、今は高校生になった息子が小二のとき不登校になり、二人三脚で歩んできた道を語った小松崎さん。その経験をきっかけにスクール・カウンセラーとなり、子どもたちに寄り添い共に悩む日々が続いているといえます。

長い回り道をして自分の「本道」に戻るといふ執念は、今からおよそ40年前にモンゴルを訪問し、その後の有機農業事業を経て、24年前から念願のモンゴルで日本語教師を務める中西さんにも言えると思います。これに対して、多彩な職業遍歴を経て、腰掛けのつもりで「世話役」になった元ヤンキーの野上さんは、ヨコさんとの付き合いを経て、自ら「天職」と言うほど仕事にのめり込むことになったそうです。波乱万丈の人生経験から編み出さ

れる氏の文章はとても読みごたえがありました。

未来があるから道草できる

今回の入賞者の特徴点は、小野村さんを含め野津さん、三井さんと、学生さんが三人も入賞したことです。入賞者の皆さんに限らず、人生における「道草」の多くは若い頃にする、またはスタートするものです。時間があっても未来があるからこそできるのですから、道草とは、人生のぜいたくな一コマです。若い時期は、道草であっても全てがその後の人生の「肥やし」になるので、今回の執筆を単なる青春レポートに終わらせないでほしいと思います。

19歳の小野村さんは、まだいくらでも道草を食べられます。野津さんのイラム体験は道草と呼ぶにはもったいない貴重な経験です。記者志望の三井さんは演劇に再会したことで「伝える」方法を模索中とのこと。羨ましい前向きな悩みです。若い三人はこれから自分の「本道」を定める段階に入り

ます。大いに悩んで自分と向き合ってください。

道草をして、楽しんで生きる

最後に言いたいことは、生きることを楽しむということ。坂本さんや松岡さんの子ども頃の思い出は、「今の子どもたちは無心に道草を楽しむことはできないのか」という反語的な思いを述べたものでもあり、小野寺さんの飛行機操縦の夢を実現する実行力は爽快です。また、八木さんの古代史探訪の旅は新しい自分を発見し、鉄道オタクの関本さんは希少な休暇を目いっぱい楽しんで多忙な日々の糧としました。現代人は幹線道路のような「本道」とは違った歩き方の大切さに気付くべきです。

内容面でやや異なる道草経験を書いてくださいった前さんや安部さんの場合も、同じことが言えるのではないのでしょうか。前さんの苦しみと悲しみは評者には到底分かるものではありませんし、安部さんの経験は他人ごとではないと思うばかりです。しかし、苦しい

とき、悲しいとき、辛いときこそ、「上を向いて歩こう」「幸せは歩いてこない、だから歩いてゆくんだね」と歌ってみてはいかがでしょうか。この歌は、人間が「生きて生きる」ための基本原理ではないかと私には思われます。立派な人生も貴重ですが、楽しい人生はもっと重要です。



私の道草

〈私の生涯教育実践シリーズ '19〉

『私の道草』

1,000円

ぎょうせい刊

ご希望の方は財団事務局までどうぞ。

第35回彫刻奨学生作品展

2019年12月3日～13日まで、日本大学芸術学部江古田キャンパス内で「第35回彫刻奨学生作品展」が開催されました。奨学生5名の作品がギャラリーや資料館に展示され、多くの人々の目を楽しませました。奨学生の作品は、3月に山梨県笛吹市「藤壘の滝大窪いやしの杜公園」内に設置されます。石和温泉から車で20分のところにあります。ぜひ、甲斐方面にお出向の際は、足を延ばしてお立ち寄りください。また、3月下旬には同公園内で「境川ミズバシヨウ春まつり」が開催されますので、お見逃しなく。

多摩美術大学
大学院美術研究科彫刻専攻
小柳 春乃さん



「作品に座ったり触れたりしてほしい」と話す小柳さん



「おやすみ」



「おのおの」

私の作品は石彫が多く、赤ちゃんとかをイメージして造ることが多いです。

『おやすみ』は、休むことをイメージ、母体である大きな石と胎児の小さな石のセットの作品です。大きな石の間から小さな石を覗いてみたり、座ったり、鑑賞者が作品に触れるなど関わってほしいと思っています。大きな作品ですが、手彫りで、機械をあまり使わないようにして造りました。

『おのおの』は、芋虫に足が生えているのをイメージしていますが、周りからはサンショウウオと呼ばれています。見え方が作者の意図と異なってもそれでも良いのです。

日本大学大学院芸術学研究科
造形芸術専攻
竹村 太一さん



熱く語る竹村さん



「!?!?!」黒い布の箱の中にピエタ像のシルエットが!



ピエタ像の表皮を粹に!

「ものを見る」ということを考えてほしい、それが私のテーマです。この場所、ここにあるもので成立する展示をしたくて作品「!?!?!」を制作しました。ここにあるピエタ像の枠を取り、表皮だけの枠を黒い布の箱の中に配置しています。黒い布越しに、ピエタ像のシルエットが映し出されます。光の加減で見えたり、見えなかったりします。見るために近づいたり、近づくと全体像が見えなかったりします。作品というより、装置に近いものです、場所から生まれた作品です。

ミケランジェロのピエタ像は学校の大切な備品であり、それらを粹取りに使わせていただいた先生方に感謝しています。

日本大学大学院芸術学研究科
造形芸術専攻彫刻分野
宮崎 虹季さん



宮崎さんと『Men Going Their Own Way-White Pill』



『Men Going Their Own Way-Black Pill』



『In the near future』

石とコミュニケーションを取り、石と相談しながら創作します。石を彫っていると、石とつながっている感覚があり、その感覚を大事にして、石と共に形を決めていきます。石が教えてくれるといったところでしょうか。小さくコロッとした作品『In the near future』を造るときに、石が手のひらの形だったり、手になじむ形にどんどんなったりしてきました。家に帰る時にポケットに入れて触りながら帰ったりもしていました。

『Men Going Their Own Way-Black Pill / White Pill』では、他とは異なった作品です。コルセット、女性の体を変えてまで自分を演出するといったところを石で表現してみました。黒はハードな、白は清楚な印象にできて上がっています。

女子美術大学
大学院美術研究科 立体芸術研究領域
飯島 祐奈さん



飯島さん『伝言ゲーム』の中に



『伝言ゲーム』



何に見えますか？



『「ここだけの話」の距離』

私の大きなテーマは、『コミュニケーションの形』です。作品『伝言ゲーム』は、8枚の大理石を並べそこに絵を描いて(造って)います。それが初めて見る人にどの様に伝わるかです。海をイメージして作ったものが、人には山に見えたり、カモメに見えたりするなど違った形に見えます。作者の意図はありながら、いろんなものに見えるよう、わかり過ぎず、伝わるか伝わらない位のところを狙い、ゲーム的なものを造りました。『「ここだけの話」の距離』は、コミュニケーションを取る、内緒話をする親密な関係の距離感というものを表現しました。

日本大学芸術学部
美術学科彫刻コース
大濱 聡平さん



作品『前途遼遠』とコラボする大濱さん



『あゆみ』薄い鉄板の作品



『醜体 立像』厚い鉄板の作品



『前途遼遠』

自分がコンプレックスに思っていることを作っていくうちに、作品が人体となりました。

薄い鉄板を叩いて造ることで、創作活動を始めましたが、厚い鉄板で組み上げていくように変化していきました。薄いものは、ただひたすら叩いて形を締め上げていくもので、「あるもの」から形にするものです。一方、厚いものはパズルのように組み上げていきましたが、「ないところ」から形にしていく、そこに難しさがあります。通常は1.5か月くらいで作品を造りますが、この作品『前途遼遠』は、納得がいくまで3回も造り直し、半年かけて制作しました。教授には温かく見守っていただきました。

外国人奨学生奨学金授与式



当財団では、成績優秀であるにもかかわらず、残念ながら経済的に恵まれていない学生に、学習の機会を与え、日本との友好関係を築く礎になれば、との想いから外国人奨学生制度を行っています。1999年中国天津の南開大学から始まったこの制度は、現在では中国の広州、ベトナムのハノイ、インドネシアのスマラン、フィリピンのミンダナオに展開しています。

8月に行われたインドネシアPOLINES大学の授与式には、当財団の城常務理事が出席し、奨学生一人ひとりに証書を手渡しました。

9月に行われたベトナムハノイのズンサ高校入学式において、奨学金授与式が行われ、多くの在校生が見守る中、25名の奨学生に証書を手渡しました。また、フンイェン財務経営管理大学で行われた奨学金授与式では、VNS古仲社長あいさつの後、奨学生25名に証書を授与しました。また11日に行われたベトナム国立農業大学入学式で行われた奨学金授与式では、華やかな歌や踊りが披露された後、15名の奨学生に証書を手渡し、温かい拍手が送られました。

12月には、中国・広東省にある広東工業大学の奨学生への奨学金授与式が行われ、13名の奨学生は喜びと今後の抱負を語りました。

財団ではこれからも多くの学生に学習の機会を与え、両国の友好の一助となることを願って、奨学助成を続けていきます。

POLINES大学 (インドネシア)



証書を授与する城常務理事



奨学生と関係者のみなさん

ズンサ高校 (ベトナム)



授与を見守る在校生のみなさん



奨学生のみなさん

フンイェン財務経営管理大学 (ベトナム)



あいさつするVNS古仲社長



奨学生のみなさん

国立農業大学 (ベトナム)



華やかな歌や踊りを披露



証書を授与するVNS菊池課長

広東工業大学 (中国)



GSE富永総経理から証書を授与



奨学生と関係者のみなさん

MCL(ミンダナオ子ども図書館)へ支援物資を送付

毎年恒例となっている、フィリピン「ミンダナオ子ども図書館(MCL)」への支援物資の寄付も、昨年9月で9年目となりました。みなさまからの善意のおかげで、衣料品やぬいぐるみ、タオル、シーツ、リュックサック、運動靴など、今年も多く物資が集まりました。10月に大きな地震に見舞われたミンダナオですが、現地から子どもたちの嬉しそうな明るい笑顔が届きました。



笑顔があふれる子ども達

MCL(ミンダナオ子ども図書館)に保育所修繕の助成

北野財団では、「ミンダナオ子ども図書館(MCL)」が行っている保育所建設の費用を助成しています。

2019年度は新たな保育所建設ではなく、2010年度に建設費用を助成し完成したプル保育所他の修繕費助成を行いました。新しくなった保育所で子どもたちに読み聞かせなどを行い、子どもたちは様々なことを学んでいくことでしょう。



保育所の修繕に取り掛かるみなさん

子どものための演劇・ダンスワークショップへの協賛

当財団では、公益財団法人 目黒区芸術文化振興財団が行っている、子どものための「演劇入門ワークショップ」「ダンスワークショップ」「演劇&ダンスワークショップ」(パレットプログラム)へ協賛しています。演劇やダンス未経験の子どもたちが、発表会に向けて振付家や演出家の指導を受けながら一生懸命にみんなで楽しくからだを動かし、初めてのジャンルに挑戦するよろこびやむずかしさを学び、仲間たちとの絆を深めながら「めぐろパーシモン小ホール」での発表会に挑みました。この経験は子どもたちにとって素晴らしい宝物となることでしょう。



劇作家・演出家の平田オリザ氏から指導を受ける



体で楽しく表現するよろこび



力を合わせて作品を創り上げる

ご報告



目黒区より 「図書寄贈」への感謝状受領

当財団が実施している小・中学校への図書寄贈に対して、1月22日、目黒区から感謝状を授与されました。当財団では2010年から毎年、目黒区内の全小・中学生の心の糧になるように、と合計8,005冊の図書を寄贈しています。



関根 義孝教育長 (右) から感謝状を授与される 城 真二常務理事

秦野市より 「図書寄贈」への感謝状受領

昨年から実施している秦野市の小・中学校への図書寄贈に対して、

1月18日クアーズテック秦野カルチャーホールにて秦野市から感謝状を授与されました。財団は、今後各地の小・中学校への図書寄贈を続けてまいります。



授与された皆さん

生産性の船2号船 成果報告会

当財団では、公益財団法人 日本生産性本部が主催する洋上研修「生産性の船」に勤労者を派遣し、その派遣費用を助成しています。11月6日(水)～14日(木)までの9日間の研修を終えた6名による「成果報告会」を、11月22日、財団ホールで開催しました。参加者は、研修に参加して学んだことや、意識改革、

今後の仕事への意気込みなどを熱く語りました。



研修の成果を発表する皆さん

お知らせ



第42回 事実に基づく小論文・エッセー募集 すぐそばにある「世界」

昨年はラグビーワールドカップが日本で開催され、大変な盛り上がりを見せました。そして、いよいよ今年の夏はオリンピック・パラリンピック！世界中から多くの外国人が日本を訪れます。すでに駅の表示は日本語だけでなく、英語、ハンゲル語、中国語が併記され、車内アナウンスも同様に変わってきています。

近所のコンビニではインド人やベトナム人の店員が流暢な日本語で会話し、複雑な業務をテキパキとこなしています。介護・福祉の

分野でも多くの外国人が活躍しています。日本にいながらにして世界中の料理を食することができ、衣類のほとんどは海外からの輸入品です。また日本のアニメやコスプレは海外でも大変人気があり、各国でイベントが開催されるなど、日本の新しい文化が海外に広がっています。インターネットの普及によって世界中の人とSNSで会話し、eスポーツで対戦することも、動画配信することも可能です。世界中の情報を簡単に入手できる今、遠くに感じていた「世界」がぐっと身近に感じられるようになりました。

あなたにとつての「世界」はどのようなものでしょうか。様々な異文化体験によって学んだこと、感動したこと。外国人との交流で気付いたこと、考えさせられたこと。留学先で助けられたこと、手を差し伸べてもらったこと。ボランティア活動から得られたこと等。あなたのすぐそばに「世界」はあります。ご自身の経験を振り返り、小論文・エッセーに綴ってください。

応募規定 縦書き400字詰め原稿用紙8枚～10枚

締切 2020年5月9日(土)

賞金

- 1席(1編) 賞状・副賞50万円
- 2席(3編) 賞状・副賞10万円
- 3席(5編) 賞状・副賞5万円

佳作(10編) 賞状・副賞3万円

入賞発表 2020年8月初旬

表彰式 2020年11月13日(金)

会場 The OkuraTokyo (ホテルオークラ東京)

**ライフランセミナー(その10)
50代から考えるライフプラン**

「100歳まで生きる」が当たり前になるこれからの時代。専門講師の指導のもと、定年後も生き生きと暮らすためのライフプランを作成する講座です。おひとりでもご夫婦でも参加可能です。健康で豊かな老後を生きるために、ぜひご参加ください。

日程 2020年6月13日(土) 9時30分～17時

会場 渋谷エクセルホテル東急

会費 1,500円/1人(昼食付)

伝承研修(その27) 偉人のふるさとをたずねて 「云津編」

戊辰戦争や白虎隊の歴史を学びながら、会津藩ゆかりの地を巡ります。また江戸時代の宿場町の姿を今に残す大内宿を訪れます。



名勝会津松平氏庭園 [御薬園]

日程

2020年8月31日(月)～9月1日(火)

定員 40名

奨学生募集

学習意欲のある社会人を応援！

奨学対象

・科目等履修生(学生を除く)

・放送大学大学院修士全科生および選科履修生(ただし30歳以上または実務経験5年以上)

申込者の中から書類選考のうえ奨学生を決定します。なお奨学金は給付で返済不要です。

締切 2020年5月6日(水)

〈科目等履修奨学生〉

奨学金 年間20万円

定員 15名程度

〈放送大学大学院修士全科奨学生〉

奨学金 30万円(各年度15万円)

定員 10名程度

〈放送大学大学院選科履修奨学生〉

奨学金 年間7万円

定員 15名程度

伝統文化「狂言」に親しむ

狂言師 石田幸雄氏(万作の会)を講師に招き、「狂言」の基礎知識を学びながら、実演を鑑賞。

体験し、「狂言」の魅力を存分に味わいます。

日程 2020年6月20日(土)

13時30分～16時00分

会場 めぐろパーシモンホール

小ホール

定員 100名

会費 1,000円



伝統文化「狂言」

情熱の踊り「フラメンコ」に親しむ

ユネスコ世界無形文化遺産に登録されているスペインの伝統的な舞踊の基礎知識を学びながら、小松原庸子スペイン舞踊団による情熱の踊りを堪能しましょう。

日程 2020年8月22日(土)

13時30分～16時00分

会場 めぐろパーシモンホール

小ホール

定員 180名

会費 1,000円



情熱の踊り「フラメンコ」

表紙ギャラリー

当財団は、『出会いにはドラマ、感動する心を大切に』というスローガンのもと、出会いを大切に、様々な学ぶ機会を提供してきました。人との出会いだけではなく、城や神社仏閣などの歴史的建造物や長い歴史に育まれた美しい原風景との出会いからも学ぶことは多いのではないかと考え、『世界遺産』を財団機関誌でご紹介します。

姫路城(兵庫県)

姫路城は、1993年12月、世界文化遺産に日本で最初に登録されたものの一つです。白い城郭がシラサギのように見えることから別名「白鷺城」とも呼ばれています。その美的完成度が我が国の木造建築の最高の位置にあり、世界的にも他に類のない優れたものであること、17世紀初頭の城郭建築の最盛期に、天守群を中心に、櫓、門、土塀等の建造物や石垣、堀などの土木建築物が良好に保存され、防御に工夫した日本独自の城郭の構造を最もよく示した城であること。——などから世界文化遺産に登録されたものです。また、2009年から2015年の間、平成の修理として保存工事がされ、より白さが増したと評判です。当財団では、この春の歴史研修で訪れる予定です。

白い城、黒い城の違いは、諸説ありますが関ヶ原の合戦の頃に境に黒から白へと変わったようです。姫路城の歴史は古く、1333年頃に築城されました。現在のものは1609年に建築されたもので、関ヶ原で戦功を立て、大改築されたものです。以来、400年以上が経過した現在でも、その白く美しい姿を残しています。

姫路城は、美しいだけではなく、内堀、中堀、外堀の三重の堀をらせん状に巡らせた、珍しい縄張りを有し、菱の門からいくつもの門を通り抜けないと、天守閣にたどり着けない戦術的な城だったのです。現在は、外堀が姫路駅前、中堀が国道となっていますが、面積は233ヘクタールと甲子園球場約6個分にもなり、その大きさに驚かされます。また姫路城の壁には、○△□などいろいろの形の狭間があります。これらの狭間は鉄砲、弓矢などを射るための穴で、用途によって形が異なっているのです。姫路城を訪れたら、戦国時代の武将になりきり、最初の門を通過してから、いくつもの門と狭間からの攻撃を通り抜けて、無事に天守にたどり着けるかを想像しながら歩いてみるのも楽しいかもしれません。



※文章引用：姫路市ホームページより

こ・ち・ら・編 集 室

財団が毎年行っている『事実に基づく小論文・エッセー募集』が始まりました。今年の課題は「すぐそばにある『世界』」です。
本号でも紹介していますが、財団では外国人奨学生に奨学助成を行っていますが、またミナダナオ子ども図書館の保育所修繕費用を助成し、支援物資を送っています。財団にとって『世界』はとても身近です。
昨年は464編もの応募がありました。年齢層はとて幅広く10代から80代まで。北海道から沖縄、さらには海外からも応募がありました。あなたにとっての『世界』を綴ってください。今年も素晴らしい作品が寄せられることを願っております。

設立のねらい

当財団は、スタンレー電気株式会社の創業者北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省(現文部科学省)の認可を得て発足し、2010年12月1日に公益財団法人となりました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学ぶ機会をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持てるよう、時代が求める諸事業を展開してまいります。

生涯教育だより 第122号

2020年3月10日発行

編集人 城 真二

発行人 北野 重子

発行所 公益財団法人 北野生涯教育振興会

〒153-0053 東京都目黒区五本木1丁目12番16号

電話 東京 03(3711)1111



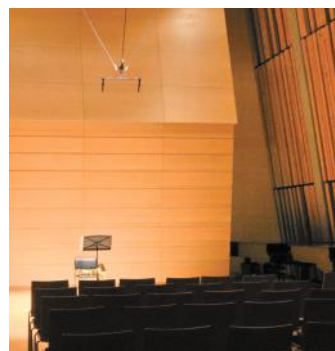
愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学
学長

戸山 俊樹さん

TOSHIKI TOYAMA

芸術を通じて より豊かな社会へ

愛知県立芸術大学は、半世紀にわたって音楽と美術の分野で数多くの著名人を輩出してきました。芸術を通じて豊かな社会の実現を目指す愛知県立芸術大学の特色と多彩な活動について、戸山学長にお話を伺いました。



室内楽ホール。実技試験だけでなく、公開講座、リサイタルにも活用

—愛知県立芸術大学の成り立ちと特徴について教えてください。

本学が誕生したのは、東京オリンピックの2年後の1966年。愛知県を中心とした中部地方で著しい経済発展が続く中で、東西の中間地点における芸術文化の発展を志して音楽学部と美術学部が設けられ、開校に至りました。

キャンパスが位置するのは名古屋市中隣接する長久手市で、敷地面積は40万8,000㎡。自然に囲まれ、芸術と向き合いながら学びに専念できる環境は、本学の魅力の一つです。

—指導の方針や特色についてお聞かせください。

音楽にせよ、美術にせよ、一つの道を極めるには、自分の型〴〵を見つけて能力を磨いていくことが求められます。そのためには、表現技術をはじめとした基礎的な技能の研鑽

第1回愛知建築系大学共通設計競技授賞式の様子

が不可欠です。そこで本学では、学部生に研究生、院生を含む全学生数を1,000人弱とし、少人数教育に則った丁寧な個人指導を展開しています。

また、国際交流に力を入れており、本学の特徴です。例えば音楽学部ではドイツのケルン音大やハンブルク音大、ハングリーのリスト音楽院など、名だたる大学と学術協定を結び、交換留学制度を設け、異文化の中で技術を磨き、見聞を広げてもう一つ土壌を整えています。

加えて毎年12月には、音楽と美術、2学部を併せ持つ総合芸術大学としての特色を活かした、音楽合同制作によるオペラ公演を開催しています。2022年には美術学部「デザイン・工芸科」にメディア映像専攻を創設する予定で、新たなメディア映像表現の開拓に挑むとともに、両学部のさらなる交流の促進にも期待を抱いています。

—愛知県立芸術大学の社会との関わりについて教えてください。

社会貢献のために、本学では、地域社会との接点を数多く設けています。開催する演奏会は年間40回以上に上り、ホールや美術館に足を運ぶことが困難な入院患者の皆さんのために病院で演奏会を開く、病院アウ

トリーチプロジェクト等の取り組みも、本学ならではのものと言えるでしょう。

また、「社会の中で人と人をつなぐハブとしての役割を果たす」という考えの下、芸術が直接関わらない分野においても、さまざまな活動を展開しています。中部経済連合会主催の産学フォーラムへの参画や、失われた伝統工芸の復活プロジェクトの推進、中部圏でビジネスのイノベーションを引き起こす場として活用されている「MAGOYA INNOVATORS GARAGE」の作品出展

などはその一例です。2019年には第1回愛知建築系大学共通設計競技に参加し、見事最優秀賞を獲得。これは建築学科を持つ愛知県の16の大学を対象としたデザインコンペティションだったのですが、専門的な建築の教育・研究を行う他大学を抑えて最優秀賞を獲得できたことは、本学の学生の発想力の高さが評価された結果だと、大変喜ばしく思っています。

—北野生涯教育振興会についての印象をお聞かせください。

私たちは、芸術とは暮らしを豊かにするものだと考えています。早い時期から人生を豊かにすることの重要性に着目するとともに、生涯教育および芸術の発展に尽力

—習慣となっていることや、ご趣味について教えてください。

芸術大学には実力主義に近い側面があり、学生たちは、実技において実力のある教員を常に求めています。私自身も学生に直接指導している立場なので、毎日音楽のトレーニングを欠かさないようになっています。趣味は、強いて言えば散歩でしょうか。散歩の最中に考えがまとまり、問題解決の糸口が見えることも多々あるため、一人で過ごす貴重な時間として、大切にしています。

—読者の皆さんへメッセージをお願いします。

少子化問題に伴って受験生の絶対数が減少する中で、今後、いかに教育活動を展開していくかは本学にとっても大きな課題です。教職員自身も楽しみながら多彩な取り組みを展開し、地域・社会、そして芸術の発展に寄与していきたいと考えています。

芸術文化の発展と、人材育成に注力されておられる戸山学長。愛知県立芸術大学のさらなる発展と、学生ならびに教職員の皆さんのご活躍をお祈りします。